

# 牛王さま移転記

本匠村 久々宮 永

## 一

そこに何時から祀られていたのか詳かでなく、それが何さまであるのかさえも定かではなかった。唯知られているのは、それを「ゴウさま」と呼ぶことと、七月九日（正しくは旧暦六月九日）が御日おんひであり、その日井手算用（水路決算）があつて、お神酒みきを供えることが伝承されてゐるに過ぎない。

この「ゴウさま」とは、本匠村井ノ上字前高の県道沿いの水路の脇、竹藪の中に祀られている一基の石の祠と、その左右に三基ずつ並ぶ五輪の塔の事である。

私は井ノ上部落の区長に保存されている、旧藩時代の検地高帳を、かつて調べた事がある。その中の嘉永三年の前高津留開田に伴なう検地帳により、「ゴウさま」が牛王（ごおう）の宮であることを知った。又その祀ら

れていた場所も、昔は現在の堤の敷地内にあつたであろう事もわかつた。しかしそれが現在地に移された記録は何も残されておらず、村の古老に尋ねて回つても、それを裏付ける証言は得られなかつた。

このような牛王さまが、この度、計らずも移転の余儀なきに立ち至つた。それは県道拡幅工事による立ち退きである。県は祭祀者たる水路関係者に、いささかの移転費と祭祀料を交付して、移転作業一切を委ねられた。

役人は障らぬ神たまたに崇たりなしと錢呉れて牛王移せとぞ  
言う

## 二

六月四日、田植えを目前に控えた五月晴れのさわやかな日であつた。いよいよ牛王さま移転の日である。

周囲一帯の藪が美しく刈り払われ、あらわとなつた牛



把の切株の処に下ろした。それを工事の人夫さんが受けてあとのみんなが次々に運んだ。

地輪を取り除けた時、誰かが「あ、何かあるぞ」と言った。地際に口径十五センチ程の壺らしいものの縁の部分が覗いている。

私は直感的に「これは外から移して来たものに相違ない」と思った。なぜならば壺の埋め方が浅いからである。そっとためぬように掘り上げた壺は、釉の掛った時代の新しい物であった。壺の中味はただの土らしいのでそのままにして、新しく移す処に元のように埋めた。そして村の教育委員会に電話で報告し、緒方課長に来て貰うことにした。

次の五輪塔の下からも、同じような壺が出て来た。私は嘉永開田の折にここに移したであろうとする、私の仮説にいよいよ確信を深めた。

### 三

更に想像を逞しくするならば、次の如くである。

嘉永年間、因尾村組大庄屋高野唯八郎の下に、前高津留開田は至上命令であった。番匠川は三竈江神社の下附近から下流前高神社附近まで、約三キロ余りの川原は、俗に大師河原と言うように、洪水時以外は全く流れが途

切れている。それで前高津留を開田せんとしても、灌漑用水を番匠川本流に求めることは不可能である。従って小谷の僅かな湧水にたより、それを堤を築いて溜めるより方法がなかった。

堤構築予定地である、新七、惣右エ門、為七三名の畑地には、牛王さまの祠を始め、六基の五輪塔が点在していた。それでここに堤を構築するには、先ずこれを移さねばならなかった。

時の小庄屋、一郎右エ門「後藤九代先祖」は、地目付惣右エ門（私方先祖）等と計って、その移転地を小庄屋自らの土地である現在地に決定したのである。

では五輪の塔は何さまであろうか？ 私は次のように思う。それは前高神社にまつわる平氏落人伝説の、その落人達の墓か、もしくは供養塔であったであろうけれども、当時はもう既にそれが何であるか、定かでなかったのであろう。人々はその何か得体の知れぬ五輪塔の移転には、底知れぬ畏怖を感じ躊躇した事であろう。

そこで小庄屋らは使を走らせて、佐伯の御城下から新しい壺六個を買い求め、五輪塔の底土をその壺に納めてお移しをしたものであろう。人々は開田と言う至上命令の下に、畏れつつもそれを移し、牛王さまと共に祀った

のではないだろうか。

惣右エ門ら移しませしけむ牛王の宮五代目吾の又移す

かも

#### 四

中心に祀られている牛王さまの祠の下からは何も出なかつた。けれども、左側の五輪塔の下からは、右側と同様な壺が掘り出された。作業は思いの外早くはかどり、一基残すだけとなった頃、村教委の緒方課長と高野主事が来られたので、始めて壺の中の土を全部出して見ることにした。土は小さな石灰岩礫を交えた、この附近の畑土に普通に見られるものであった。丹念に調べてみたがい外には何も見つからなかつた。

こうして私達は総てお移しをすませることができた。新しい場所に並んだ所を見ると、それぞれに風格があり、趣があつて以前の藪の中に埋っていた時より、はるかに見栄えがする。私は肩の荷を下ろした思いで公民館に引き上げた。そして晴れ晴れとした気持で、直会のビールを酌み交わした。

#### 五

七月十九日 今年の梅雨明けは例年より随分遅かつた。

しかしそれだけに降雨量は多く、毎年水不足に悩む前高津留も堤に水を満々とたたえている。牛王さまの御日である九日は、都合の悪い人が多く、十日遅れの今日井手算用が行われた。

前高の県道拡幅工事は、その後順調に捗り唯一人の怪我もなく、完成間近となっている。道路の拡幅に伴い沿線にあつた水路も新しく造り替えられ、その真新しい水路を水が勢いよく堤に流れ込んでいる。

牛王さまは、この新しい水路より更に二メートル程上に祀られているので、広くなつた県道からもよく見えるようになった。

私は今日、移転後始めての井手祭りのお神酒を持って参つた。新しく、高きに鎮座します牛王さまからは、前高津留のどの田圃もよく見える。

転作田や、休耕して、もはや手のつけようもない荒らし田の交り合う稲田を、牛王さまはどのように眺めて在しますのであろうか。私は久しぶりに照りつける夏の陽差しの中に立っていた。

県道成り高きに祀れる牛王の宮荒らし田交えし稲田

見ませり